

中期CSRアクションプラン

日本化薬グループでは、2013年4月より、2016年の創立100周年を目指した新たな3カ年中期事業計画 **Challenge 100A!** (Challenge toward our 100th Anniversary)を開始しました。これに伴い、**Challenge 100A!** 期間中に取り組む中期CSRアクションプランを設定しました。本中期CSRアクションプランを全役員・従業員に徹底し、CSR経営への意識を高めるとともに、全員一体となった取り組みを進めてまいります。

分類	No.	Challenge 100A! 中期CSRアクションプラン	2014年度アクションプランに対する取り組み結果	2014年度評価	2015年度アクションプラン
基盤	①	従業員のCSRとコンプライアンスに対する意識を向上させる	CSR研修：集合研修16回 412名 国内コンプライアンス研修：集合研修50回 3,449名 海外コンプライアンス研修：集合研修(駐在員・幹部対象中国ほか)11回 138名 職場単位のコンプライアンス研修：研修資料を毎月定期的に配信し、職場単位の研修に活用	○	グループ会社を含めたコンプライアンス・CSR研修の継続実施
	②	有事発生時においても事業継続性を確保する	BCPマニュアル改訂中。セーフティシステムズ事業本部対象に2014年12月訓練実施 データセンター免震棟移設が終わりインフラ整備完了(2014年5月) ITマニュアル作成は予定より遅れ2015年5月完了予定	○ ○	各事業部のBCPマニュアルの見直しを行い、より実効性のあるBCPマニュアルを整備 ITマニュアルに基づく訓練により有事発生時における事業継続性を担保
社会的責任	③	化学物質に関する規制を遵守する	化学物質規制に関する社内教育：ベース資料の充実、法令改正に合わせた改訂実施 SDS ^{*1} による情報提供：各国のGHS導入スケジュールに合わせた対応を実行	○	化学物質規制に関する社内教育プログラムの充実 各国基準に適合したSDSによるお客様への情報提供(引き続き各国のGHS導入に確実に対応)
	④	がんとがん関連分野における研究・開発・製品情報提供により社会に貢献し続ける	血管内治療：マイクロスフィアの使用要件を満たす講習会の開催を全国各地で実施 抗がん薬内包高分子ミセル：NK105の臨床試験は順調に進捗 抗体バイオ後続品の発売に合わせ、医薬品情報センターの更なる充実を推進	◎ ◎	抗がん薬内包高分子ミセル開発推進 日本初の抗体バイオ後続品治療の提供
	⑤	従業員の火薬類取り扱いに関するスキル・知識の習熟を徹底する	受講対象者16名に対し3回の講習を実施	○	火薬安全維持推進チームによる階層別教育プログラムの実践
	⑥	農業安全使用のための現地指導を継続実施する	説明会を各担当者が担当地域で適宜実施 本件に関して誤使用による重大な違反や事故：0件	○	農業安全使用のための現地指導を継続実施
	⑦	サプライヤーと連携したCSR調達を推進する	新年度から実施するための準備完了	○	サプライヤー向けにウェブサイト等を介してCSR調達実施に向けた啓発を開始 CSR調達運用をグループ会社へ展開
	⑧	重大事故災害による環境影響や労働災害を未然に防止する	休業災害：1件、無傷害事故：1件、不休業災害：6件、MR事故率：12.7%	×	重大事故災害、休業災害、無傷害事故：0件、不休業災害：5件以下、医薬MR業務上及び 通勤途上自動車事故率：4%以下
	⑨	顧客苦情・品質工程異常を低減する	重大顧客クレーム ^{*2} ：2件、重大工程異常 ^{*2} ：2件 プロジェクト活動により日本化薬版「なぜなぜ分析マニュアル」を作成し、各工場内へ展開	×	重大顧客クレーム：0件、重大工程異常：0件 なぜなぜ分析の実施による職場力の強化とグループ会社への展開
	⑩	地域社会とのコミュニケーションを行う	「あすなろの家」2014年利用家族数：114家族(稼働率51%) ピンクリボン活動：新たに2カ所(日化東京・日化福山)追加し、計8事業場が啓発活動実施 工場祭・地域との懇談会等：例年通り継続実施	○ ○	「あすなろの家」を引き続き維持運営 ピンクリボン活動・工場祭・地域との懇談会・地域清掃活動・公開講座の継続実施
	⑪	ステークホルダーに対して適時適切な情報発信を行う	グローバルサイト：英語・中国語のウェブサイトオープン 投資家：ウェブサイトとメールを連動させ、決算・リリース関連のメール配信を開始 CSRレポートをタイムリーに発行 社内報：2016年の創立100周年に向け、会社の歴史や旧従業員の話に掲載 グループ会計方針の浸透 国内子会社経理実務担当者向け研修会の開催	◎ ○	ウェブサイト：掲載内容の充実 投資家：コミュニケーションの充実 社内報：連帯感の醸成 IFRS(国際財務報告基準)導入に向けての準備 BEPS ^{*3} 行動計画(特に移転価格関連)への対応
	⑫	多様な人材を活用・育成する	障がい者の法定雇用率：2.0%達成(50名) 女性管理職：全管理職に占める割合は4.7%に増加(前年4.2%) 外国人の登用：11人(国内・単体) 海外赴任家族も含めたサポート教育の実施	○ ○	各目標については継続 女性管理職登用比率の目標値公表 各目標については継続
	⑬	従業員の安全と健康に配慮し、ワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境を提供する	メンタルヘルス研修：3か年計画受講率ほぼ100%達成 健康診断：受診率100%達成 男性の育児休職者：3名(対象者の30%)、女性の育児休職者100%	○ ○	メンタルヘルス研修：3か年計画1年目受講計画の達成、健康診断：受診率100% ストレスチェック制度：体制の整備 次世代育成支援対策推進法の趣旨に則り、行動計画の策定・外部公表の実施
	⑭	人権とプライバシーを守る	内部通報制度の周知：コンプライアンス研修時に説明実施、新たに社内ポスターを掲示 通報相談：11件に適切に対応	○	通報・相談窓口の周知と適切な対応
環境責任	⑮	グリーン調達比率の向上を図る	間接材グリーン購入比率：7%、前年度8%から微減	△	8%程度を目標にグリーン購入を継続
	⑯	環境へ配慮し、中期環境目標を達成する	化学物質排出量の削減：データは本冊子(P.21)、ウェブサイトに掲示	○	化学物質排出量の削減：2020年度までの中期環境目標(ウェブサイトで詳細報告)達成 に向けた取り組みの継続
	⑰	廃水処理技術を向上させ、環境規制に対応する	グループ会社を含め既存技術改善と新規テーマに取り組み、特定の重金属の除去について 技術を確立	○	現在進行中の廃水処理検討テーマは2015年度末に完了、以降は次のテーマへ挑戦
⑱	より一層のエネルギー低消費型企業を目指す	エネルギー使用量：対前年98.5%、エネルギー原単位：対前年103.8%、中長期平均98.2% 省エネ推進のため工場省エネ点検実施	○	対前年比1%以上のエネルギー原単位改善を継続	
経済的責任	⑲	持続可能な企業グループとして安定的な収益を確保する	全てのグループ会社に制度を導入、一部のグループ会社で本制度に基づく評価を開始 在庫量：目標以上に増加、遊休不動産：複数の案件で検討進行	○ △	グループ会社中長期重点課題制度の浸透とこれに基づく評価制度の実施 在庫量の適正化へ向け全社で取組、遊休不動産の計画的売却
	⑳	環境・省エネルギーに貢献する製品を上市する	高性能熱伝導接着シート：市場投入に遅れ 光制御フィルム：車載向けとして性能試験に投入	△	反射フィルム(Freelux)を拡販
	㉑	経済負担を軽減する高品質な医薬品を提供する	バイオ後続品：日本初の抗体バイオ後続品を2014年11月上市 ジェネリック抗がん薬：がん関連製剤を3剤上市	◎	ジェネリック抗がん薬の遅滞ない上市
	㉒	独自技術を応用した安価自動車用安全デバイスをグローバルに拡大し、人命保護に貢献する	マレーシア拠点の生産設備設置完了、中国・メキシコ拠点における生産設備増強を実施	○	マレーシア拠点の生産開始、中国・メキシコ・チェコ拠点における生産設備増強
	㉓	ものづくり技術の継承により生産工場を維持・存続する	各種社内発表会や工場関係担当者会議の開催、及び若手向け教育は計画通りに実施 省エネ教育を100名以上に実施	◎	全社発表会のグローバル対応推進、発表会等による情報共有推進、若手教育プログラムの計画的実施
	㉔	持続的に研究テーマを創生・遂行する	新制度をグループ会社を含む各研究部署に紹介、9件の提案から3件を採択	○	新規に創設したイノベーション創出研究センターや各研究部署(グループ会社含む)と連携して、 継続的にコーポレート研究テーマを創出

ウェブサイトに ISO26000 の社会的責任の中核主題及び課題との対照表を掲載します。

◎：充分に目標を達成 ○：ほぼ目標を達成 △：実現に向け努力中 ×：目標未達

*1[SDS] Safety Data Sheet(化学物質安全性データシート) *2[重大顧客クレーム、重大工程異常] 損失額1,000万円以上、または当該責任者が重大と判断したものと *3[BEPS] Base Erosion and Profit Shifting(税源侵食と利益移転)